

青年部

[9月全体会議] 青年部勉強会開催



青年部(永田幹人会長)9月全体会議は9月28日(火)午後3時30分から協会会議室3階において、経営開発委員会(金田琳委員長)の担当で行われ、会員34名参加のもと開催されました。

勉強会は、株式会社アスア 物流コンサルティング 第二事業部長 木村 崇氏、物流コンサルティング 事業部 リーダーコンサルタント 仲 悠将氏、コンサルタント 伊藤聖也氏をお迎えして、「若手管理職による社内教育の活性化」～ベテラン社員への対応力の向上～と題して、講演いただきました。司会進行の天野晃明委員の発声により勉強会は始まり、森田力也副会長が開会の辞を述べられました。永田会長

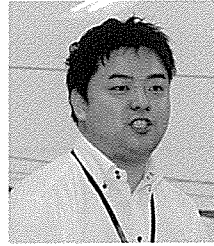


開会挨拶をする
永田会長

は挨拶で「企業家の中で言われる言葉として、『人、物、金』があります。私は企業の中で一番大事なものが『人』だと思います。青年部は年齢層が若いこともあり、年配社員との接し方に迷うことがあります。経験豊富な社員は会社の宝です。その社員

の力を引き出し、会社の発展につなげられるような、対人能力を身に付けることこそが本日のテーマです。」と述べました。

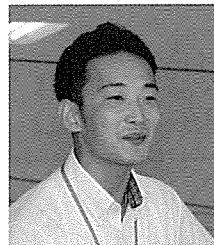
金田委員長からは「今回は従業員教育に着目し、青年部の若手管理職にフォーカスした講義です。まず管理職としての悩みが、社員及びベテラン社員との向き合い方です。この壁を乗り越えることにより一回り成長し、自信を持って経営に手腕が発揮できます。最初の壁を打破するヒントを本日は学んでいただきたいと思っております。」と述べました。



講師の(株)アスア 仲氏

勉強会前半は仲氏が講師となり、最初に立礼から始まり立礼で終わる、と挨拶の重要性を説きました。まずベテラン社員指導の3か条として、①ベテランこそ会社の活性化をさせるカギ ②アメとムチなら、アメから与える ③愚痴、文句もまずは聞いてみる を上げ、相手の立場になって気持ちを同化させることがコツとのことでした。

また従業員教育での悩みは、年長者や社歴が長い社員の指導、「それぐらいわかっている」とかわされる、頑張って指導した結果嫌われるかもしれない、等々があります。それを講義の中では、ミーティングを指導の場として、①会議のように伝達の場ではなく、理解を作る場とする。②一方的な伝達を行わない、2～3個の要点に絞り理解を測る。③主張の強い社員は手をかける(ベテラン層)理解を求めするためには時間をかけて味方になってもらう。等のポイントを上げました。



講師の(株)アスア 伊藤氏

後半の講師は、伊藤氏が担当され「注意力配分テスト」を行いました。前面のスライドに0～48の数字がマス目にランダムに配置され、0から48まで序数として数える時間を計るテストです。会場全員真剣な眼差しでマス目を見つめ、計測時間は分単位でクラス分けをします。注意力配分とは現状のことに当たりながらも、その先を予測する能力について見分けることができるそうです。それは自動車の運転において、事故を防ぐ危険予知にあたる、危険予測運転にもつながり、業務の中において運転が必須である業界にとっては必要スキルになるとのことです。その後質疑応答、(株)アスアの会社紹介後、終わりの立礼を行い、勉強会は終了しました。懇親会は場を変えて、アスナル金山の金山ソウルにて開催されました。